

岡山・美作国府跡

- 1 所在地 岡山県津山市小原
- 2 調査期間 一九八二年(昭57)十一月～一九八三年(昭58)十一月
- 3 発掘機関 津山市教育委員会
- 4 調査担当者 安川豊史
- 5 遺跡の種類 官衙跡・集落跡
- 6 遺跡の年代 奈良時代～室町時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(津山東部・西部)

美作国府跡は、津山市街地の北方約1kmの丘陵を中心とした地域に位置する。平地との比高約10mの丘陵上に国庁が考えられ、周辺の現存する地割をもとに国府域が想定されている。遺跡の北西隅を横切る中国縦貫自動車道の建設に伴う調査を初めとして、過去数回にわたる発掘調査が実施され、掘立柱建物跡や井戸等をはじめとした豊富な遺構・遺物が検出されている。

しかし、これらの諸調査は周辺部のものが大半であり、中心部の構造や国庁・府域の解明にはいたっていない。

今回の発掘調査もまた、周辺の一画を小規模に調査したにすぎない。調査は、国府推定域東半部の中心を東西に横切る市道建設に伴う事前調査で、丘陵東斜面下端部以東の路線域をトレンチ調査の方法をとった。国府関係の遺構としては、調査区東端で厚い包含層と杭列を検出したにすぎない。しかし、包含層を厚く覆う中世の造成土層や多量の遺物の出土により、条里地割の起源、国府存続期等の問題について一定の知見を得ることができた。

木簡が出土したのは、この包含層で、多量の土器をはじめ、瓦・木器・銭貨・植物遺体、そして一〇点にのぼる墨書土器と共に出土した。これらの堆積は平安後期頃で、塵芥捨場の様相を呈していた。

8 木簡の釈文・内容

(1) 「田邊」×

(48)×22×4 019

スギ材を用い、裏面から切込を入れて折り取ることによって頭部を成形している。上二字は国府の所在する苫田郡田辺郷の郷名を記したものと考えられる。

9 関係文献

津山市教育委員会『美作国府跡発掘調査報告』(一九八四年)

(安川豊史)